

女団連 × 市議会



青柳 静さん
【真岡地区婦人会】



靱山 喜久代さん
【中村地区婦人会】



柴山 千恵さん
【JAはが野女性会(真岡地区)】



会長 米子 有里さん
【真岡市せせらぎ会】



副会長 塩野 純子さん
【大内地区婦人会】



羽石 礼子さん
【JAはが野女性会(大内地区)】



横山 玲子さん
【JAはが野女性会(二宮地区)】



猪野 正子さん
【二宮ありの会】

真岡市女性団体連絡協議会（女団連）は、市内の女性団体10団体の連絡協調を図りながら、女性の地位の向上、豊かで住みよいまちづくりに貢献することを目的に活動しています。今回は、そんな女団連の役員の皆さんにお越しいただきました。

女団連を構成する各団体の活動紹介

●真岡市せせらぎ会

男女共同参画を社会に啓発する活動として、小学校での寸劇や朗読会をおこなっていました。現在はコロナで従来の活動ができていないのが現状です。今後はもっと多くの人たちに男女共同参画の意識を広めていきたいです。

●二宮ありの会

県の女性指導者研修を受講した人たちが、地域に根差した活動をしています。ありの会は、蟻のように地域にくまなく目を向けていく。という意味でつけられました。現在、40周年を迎え、さらなる会員の親睦を深め地域にできることを考えていきます。

●各地区婦人会

地域でのいろいろな事業への参加協力を行っ

ています。例えば大内地区では、地域での公民館活動や、児童施設で野菜を子供たちと一緒に育てるなどのボランティア活動を行っています。公民館祭りでは、600～800名分のカレーを提供したり、お饅頭を蒸かしたりなど、地域での活動を大切にしています。コロナで活動の自粛が続きましたが、今年は何をしようかと、検討しています。

●JAはが野女性会（真岡・山前・大内・中村地区）

男女共同参画運動やコットンスクールと称した健康教室やフラワーアレンジメント教室など、趣味を楽しむ講座などを行っています。アルミ缶回収の益金で、二宮地区のJAはが野女性会の皆さんといっしょに月一でフードバンクに食料を届けたり、JAのデイサービスにシルバーカーを寄付したりしました。



必要なのは、男女ともに変わっていくこと！



●JAが野女性会（二宮地区）

地域に根差した活動として、地産地消の料理教室や寄せ植え教室を行っています。

いちご祭りの時に、食育・食農教育ということで子供たちに、「いちごのおはなし」という紙芝居を他の女性団体と協力しながら行っています。また、JAと共同で未来ちゃんクラブという、親子での農業体験への協力もしています。

地域社会で女性が活躍するためには？

- ◆会で学んだことをしっかりと他で活かせるシステムがあり、会として頑張る人を応援できること。先輩の方から代々受け継いできたものを、次の世代へもつなげていくこと。そして、女団連としてボランティア活動や交通安全母の会での活動を通し、自分の団体だけでなく他の団体とつながっていることも、女性の社会進出につながっているのではないのでしょうか。
- ◆女性の応援、仲間の応援が必要です。
- ◆決定権のある場への女性の登用。
- ◆一番大切なのは家族の理解ですが、地域の理解・仲間の後押しが必要です。あとは、自分自身の覚悟。やりたいという気持ちが必要です。

活動をはじめたきっかけ、続けてきた理由は

- ◆人と話すことが好きなんです。生きがいです。
- ◆大きい手術をしました。一度心臓が止まってしまったんです。その後、普通の生活ができるようになったときに、ボランティアをやろう！と決めました。

今後の課題は？

- ◆若い人の入会が少ないこと。自治会に加入する人も少ないと思います。
- ◆女性が活躍するには、女性自身も変わっていかなくてはいけないし、男性の意識も変わっていかなくてはなりません。男女共に変わっていく必要があります。
- ◆人作りが一番大切。高齢者の組織も大切です。中間の世代も、若い世代もみんな一緒になって真岡市の大事なことを考えていかなければなりません。昔は公民館での社会教育がありました。今の若者たちにもぜひ、社会教育として地域を考えるきっかけを与えていただきたいと思います。10年後、20年後、50年後の未来の真岡市のために……。
- ◆ぜひ、会に入った方が良いという発信をしてほしいと思います。